

10月26日（木）

B P Cラウンドテーブル

10月26日午前中にB P Cラウンドテーブルに参加した。大阪市は、アジア太平洋地域の主要都市との経済交流を民間レベルで促進するために、ビジネスパートナー都市（B P C）提携を1988年に開始した。現在は、香港、シンガポール、バンコクなど14都市と提携している。B P Cラウンドテーブルとは、ネットワークの強化及び交流促進を図るため、B P C各都市の代表者や実務担当者が年1回集まり、テーマに沿った発表や意見交換を行うものである。

会場のメルボルン市役所市議会議場にて、まずニコラス・リース副市長より開催のご挨拶をいただき、続いて横山市長、片山議長から挨拶を行った。

【横山市長 挨拶要旨】

本日は、B P Cラウンドテーブルにご出席いただき御礼申し上げます。

大阪市とメルボルン市は本年、姉妹都市提携45周年を迎え、提携45周年事業の一環として、メルボルン市の多大なるご尽力のもと、盛大にB P Cラウンドテーブル会議が開催されることをうれしく思う。

この会議は1990年に第1回目を開催し、これまで参加各都市の間では様々な経済交流が進められてきた。会議のテーマについても、各都市が抱える共通課題や先進的な取組を共有し、相互の経済発展につなげている。今回の会議のテーマは、「Fostering Thriving Cities through the Intersection of Health, Business, and Innovation」である。2025年に「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪で開催される万博では、いのち、健康を軸に幅広いビジョンを示し、また、「未来社会の実験場」として先端技術の英知を集め、人類共通の課題解決につなげていきたいと考えており、今回のテーマはまさしく万博開催前に議論していただくにふさわしいテーマであると思う。

本日の会議が実りあるものになること、各都市間の経済連携がますます強固になること、ならびに本日もご出席の皆様のますますのご健勝・ご活躍を祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。

【片山議長 挨拶要旨】

B P Cラウンドテーブルに参加でき、皆様方と交流を深める機会を得られたことに感謝するとともに、開催にご尽力をいただいた関係者の皆様に、大阪市会を代表して御礼申し上げます。

大阪市とメルボルン市は、これまでも官民ともに様々な交流を行っており、両市の交流をさらに深め、それぞれの得意分野を生かした提携を行うなど、より一層良好な関係を築いていければと願っている。市長のプレゼンテーションを通じて、大阪市の経済ポテンシャルや

都市としての魅力を感じていただきたい。



片山議長挨拶



B P Cラウンドテーブルの会場の様子

その後、横山市長から大阪市のイノベーションに関する取組についてプレゼンテーションが行われた。

【横山市長 プレゼンテーション要旨】

本日は、大阪市のイノベーションに関する取組についてお話をさせていただく。

大阪は地理的にも日本のほぼ中心に位置するうえ、航空、鉄道、道路の交通ネットワークが充実した都市であり、大阪を中心とするこの地域の大きな強みの一つは、世界的に著名な大企業が集積していることである。また、大阪には、古くから新しいものが生まれる土壌があり、現在も新たなイノベーションを生み出し、スタートアップ企業や起業家を輩出するために様々な取組が行われている。



横山市長 プレゼンの様子

それでは、大阪市が推進しているイノベーション施策についてご紹介させていただく。

まず、大阪イノベーションハブ（以下「OIH」という。）について紹介する。大阪市では、世界中から集まる人材、新技術、資金を活用し、スタートアップ企業を生み、育て、その成長が新たなスタートアップ企業を生み出し、経済成長をもたらす原動力となるイノベーション・エコシステムの構築をめざし、2013年にスタートアップ企業や起業家が集まるイノベーション創出拠点としてOIHを設置した。OIHでは、国際イノベーション会議「Hack Osaka」やスタートアップ企業のピッチコンテスト「GET IN THE RING」などの国際的なイベントが開催されており、スタートアップ企業がイベントなどを通し、世界につながる機会を創出している。OIHの設置後、会員であるスタートアップ企業や大企業・投資家は順調に増えており、支援したスタートアップ企業の資金調達額も増え、OIHの活動で大阪のスタートア

ップ・エコシステムは発展してきている。O I Hは、海外の方々も利用できるのもので、ぜひお越し願いたい。

次に、先端技術を活用したビジネス支援について紹介する。大阪市は、A I、5 G、I o Tなどの先端技術を活用したビジネスを支援し、イノベーションの創出に取り組んでいる。咲州エリアにある「ソフト産業プラザTEQS（テックス）」を拠点に、「創る、育てる、検証する」のプログラムによる一気通貫した総合的なビジネスサポートを提供している。5 Gを活用した取組として、2020年10月にソフト産業プラザTEQS内に、ソフトバンク株式会社、大阪産業局などとの官民連携により、「5 G X L A B O S A K A」を開設した。「5 G X L A B O S A K A」には、5 G通信環境で試作品の動作検証ができる検証ラボ、5 G技術が体感できる展示・体験ルームがあり、様々なビジネスサポートを行っている。開設から3年が経過し、5 Gが有する超高速、低遅延、同時多数接続の機能を活用した、様々なソリューションが生み出されている。

最後に、大阪・関西万博について紹介する。大阪市で55年ぶり、2回目の開催となる大阪・関西万博は、イノベーションの宝庫であり、大きなビジネスチャンスである。2025年4月から184日間、来場者は2,820万人を想定している。「いのち輝く未来社会のデザイン」、「未来社会の実験場」をコンセプトに、先端技術・社会システムの実装が行われる。地元である大阪においても、出展準備を進める「大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn」において、イノベーションの促進を図っていく。中小企業やスタートアップ企業が提案したプロジェクトの中で、特に先進的、ユニークなもの、世界の企業との連携が期待できるものを展示するプロジェクトである「リボーンチャレンジ」は、オンリーワン技術や、ユニークなアイデアを持つ中小企業やスタートアップ企業がチャンスを得ることができる仕組みである。出展参加を希望する中小企業等を銀行、大学、商工会議所などの支援機関が、最長2年間かけて伴走支援していく。

このように、大阪は世界中のスタートアップ企業が活躍できる場を用意しているので、ぜひ大阪にお越しいただきたい。

当日は、香港、バンコク、クアラルンプールなど10都市から参加があり、プレゼンテーションを通して経済交流を図ることができた。



B P Cラウンドテーブル各都市の参加者と

メルボルン港グループとの意見交換

BPCラウンドテーブル参加後は、メルボルン港グループと意見交換を行うため、トラムでメルボルン港へ移動した。メルボルン港は、オーストラリア最大のコンテナ港であり、2024年に大阪港との姉妹港提携50周年を迎える。冒頭、横山市長、片山議長から挨拶を行ったのち、メルボルン港グループより説明を聴取した。

【横山市長 挨拶要旨】

メルボルン港と大阪港は1974年に姉妹港提携を締結し、1978年から隔年で職員の相互派遣を行うなど、活発な意見交換を行ってきた。来年には姉妹港提携50周年という節目の年を迎え、今後ますます両港の絆を深めていきたいと考えている。

2025年に大阪湾での大阪・関西万博の開催に合わせて、メルボルン大阪ダブルハンドヨットレースが開催される。準備を進めている両港の実行委員会の皆さまには、心から感謝申し上げます。メルボルン港と大阪港の絆を深めていけるように今後ともよろしく願います。

【片山議長 挨拶要旨】

メルボルン港と大阪港は、大阪港がオーストラリア向けのコンテナ定期航路の中心基地だったことから港湾関係者の交流が盛んになり、姉妹港提携が行われた。その後、友好親善の機運が高まって姉妹都市提携に至り、45周年という節目を迎えた。

今後とも両市の交流をさらに深め、大阪市とメルボルン市がそれぞれの得意分野を生かした提携を行うなど、より一層良好な関係を築いていくことになればと願う。昨日はヤラ川からメルボルン港を視察させていただいたが、見習うべき点がたくさんあると感じた。

大阪市とメルボルン市の今後ますますの発展と、本日お集まりの皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

【説明概要】

メルボルン港はオーストラリア最大のコンテナ港であり、ビクトリア州政府により2016年に民営化された。主にコンテナ貿易を中心に幅広い貨物を取り扱っており、北アジア、東南アジアとの貿易が盛んである。

大阪港はメルボルン港にとって最も古い姉妹港で、2024年に50周年を迎える。メルボルン港は民営化されたが、意見交換、情報収集の場として非常に重要であるため、姉妹港の関係は継続することとなった。

メルボルン市はC40（世界大都市気候先導グループ）のグリーン・ポート・フォーラムの参加都市であり、港湾のサステナビリティに取り組んでいる。メルボルン港では、2030年までにネットゼロ（温室効果ガス排出量ゼロ）を達成するという目標を設定しており、メルボ

メルボルン港の利用者と協議しながら、目標の達成に向けて取り組んでいる。また、ビクトリア州の成長に伴う港湾施設のアップグレードにおいても、サステナビリティに配慮したものとしている。

メルボルン港についての説明を聴取したのち、大阪・関西万博に合わせて開催される2025年メルボルン大阪ダブルハンドヨットレースについて意見交換を行い、同レースやスーパーヨットに関する夢洲、大阪港での受入環境の整備について、大阪市から説明を行った。

メルボルン大阪ダブルハンドヨットレースはもともと2023年に開催される予定であったが、平成30年12月に姉妹都市40周年記念事業の際に、当時の大阪市長が、同レースを万博のプレイベントにすることを提案したことをきっかけとし、2025年に開催することに変更されたものである。



メルボルン港グループとの交流の様子

メルボルン市議会議員との意見交換

メルボルン市庁舎において、ケビン・ルーイ市議会議員、フィリップ・ル・リュウ市議会議員及びジャマル・ハキム市議会議員の3名と、メルボルン市の現状や市民の政治への参加など様々な観点から活発に意見交換を行った。

【意見交換概要】

- ・オーストラリアの投票率の高さを例にあげ、選挙の投票率向上への取組について、投票された方に地域振興券のようなインセンティブを与えることができないか、委員会で質疑をしたことがある。

⇒オーストラリアでは投票は義務であり、投票しなければ罰金を支払わなければいけないが、それでも投票率は下がってきている。罰金やインセンティブを与えるなどの方法もあるが、投票をデジタル化するなど投票をしやすい環境を整えるのも重要だと思う。

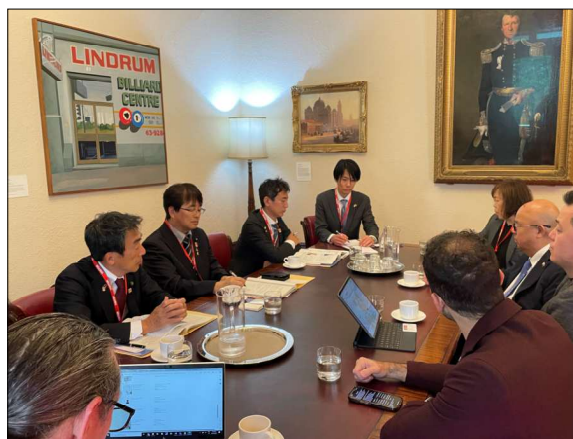
また、罰金は考え方によっては自治体の収益とも言えるので、入ってきた収益を市民に還元していくことも重要であると思う。

- ・日本では、もともと選挙の投票権は納税額や性別で制限されていたが、戦後になって女性の参政権が認められるなど平等となった。そのため、高齢者は投票を権利と考えているが、若者は義務のように考えており、考え方の違いが投票率に影響している。

⇒そういうことがあるので、若い世代は政治に興味を持つべきだと思う。そうしなければ、政策は高齢者のためのものばかりになってしまう。若い世代に還元できるように、若い世代から立ち上がる人がいないといけないと思う。

- ・政治への市民参加について聞きたい。メルボルン市議会では、市民の方がメルボルン市の政策などを知るには、どのような方法があるのか。

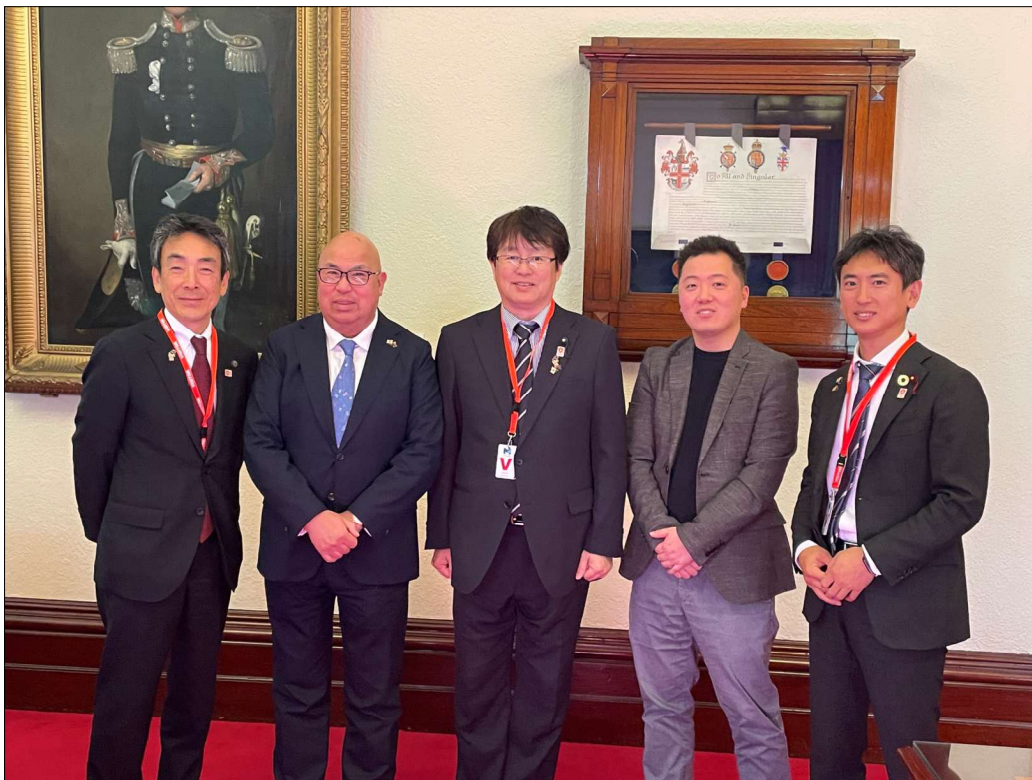
⇒主な政策や市民に直接関係のある政策などは、議会に諮る前に市民から意見を聞かなければならない。委員会では市民が直接質問をすることができ、質問はオンラインでも可能となっている。



メルボルン市議会議員との意見交換の様子

- ・大阪市では、万博やI Rなどの大きなイベントを控えており、万博にかかる費用の上振れやカジノのギャンブル依存症問題など市民の方から厳しいお言葉をいただくことがある。メルボルン市は、市内にカジノがあり、大きなイベントも経験してきているが、市民の理解を得るのにどのようにされてきたのか。

⇒カジノについては、州政府が主体で推進したものであり、州法で管理されている。カジノの建設が決まった20年前は、カジノのある地域は再開発が必要な、周りに何も無いような場所であった。今では、カジノ事業者はメルボルン市で一番の高額納税者であり、雇用の提供者であるが、カジノの収益に対する税金はすべて州の税収となり、メルボルン市の税収となるのは、カジノの土地に対する固定資産税だけである。また、カジノの経済活動の恩恵が、カジノだけではなく、その周りにももたらされるように市として考えなければいけないと思う。



メルボルン市議会議員との意見交換後

答礼レセプション兼B P Cラウンドテーブルレセプション

メルボルン市滞在中にお世話になった方々へのお礼及びB P Cネットワークレセプションとして、大阪市、大阪市会主催により答礼レセプション兼B P Cラウンドテーブルレセプションを開催した。冒頭、横山市長が挨拶を行い、続いてサリー・キャップ市長からご挨拶をいただいた。

【横山市長 挨拶要旨】

サリー・キャップ市長、B P C各都市代表の皆様、島田総領事並びにご出席の皆様、レセプションの主催者として大阪市及びB P C協議会を代表し、一言ご挨拶申し上げます。

本日はこのようにたくさんの方にお越しいただき、盛大に記念レセプションが開催できることを心よりうれしく思う。大阪市とメルボルン市は、本年で姉妹都市提携 45 周年を迎えた。この滞在期間中、メルボルン市ほか関係者の多大なるご協力のもと、全日程を完遂することができ、両市の絆を深めることができたと感じている。

また、本日のB P Cラウンドテーブル会議には、各都市からたくさんの方々が集まり、盛大に会議を開催することができた。これからも都市間のビジネス連携を一層促進できればと思う。

大阪では 2025 年に大阪・関西万博が開催される。世界中の方々にご来場いただき、楽しんでいただける万博に向けて開催準備を進めており、是非、皆様方にご来場いただきたい。

メルボルン市と大阪市の連携並びにB P C各都市間の連携がさらに深まるよう、また、本日お集りの皆様のご健康、ご多幸を祈念して、私からの挨拶とさせていただきます。

レセプションには、メルボルン市関係者に加え、滞在中訪問先の関係者やB P C関係者など約 130 名が参加し、多くの人と交流を行った。また、ミyakミyakとともに、大阪・関西万博のP R活動を行った。



レセプションでの交流の様子

レセプションの最後に、片山議長より挨拶を行った。

【片山議長 挨拶要旨】

メルボルン滞在中、皆様方にはあたたかくお迎えいただき、本日ご臨席の皆様をはじめ、大阪市とメルボルン市の45周年記念事業の成功にご尽力いただいている関係者の方々に、大阪市会を代表し、この場を借りてお礼申し上げます。また、本日はこのように大阪市とメルボルン市の姉妹都市提携45周年を記念するレセプションで、皆様と交流を深めることができたことを心よりうれしく思う。



片山議長挨拶

大阪市とメルボルン市は姉妹都市交流に加え、姉妹港、ビジネスパートナー都市など、緊密な関係を構築している。

お集まりいただいた皆様には、交流を深めていただき、メルボルン市と大阪市における関係強化、ビジネス交流の促進などにつなげていただきたい。

2025年には、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして、大阪・関西万博が開催される。最先端技術などの英知が結集され、様々な分野に新たなイノベーションをもたらすことが期待されている。皆様方にはぜひ大阪にお越しいただき、活力あふれるその姿を目の当たりにしていただきたい。

メルボルンと大阪の交流がより一層深まりますよう、また本日お集まりの皆様のご健勝とご多幸を祈念して、私からのご挨拶とさせていただきます。



メルボルン滞在中にお世話になった方々と

おわりに

今回、姉妹都市提携 45 周年を記念してメルボルン市を訪問し、滞在 4 日間という非常に短い期間ではあったが、大阪・メルボルン両市関係者のご尽力のおかげで充実した行程となり、表敬訪問、レセプション、視察など様々な形でたくさんの方々と交流を深め、とても有意義な時間を過ごすことができた。

メルボルン市長やメルボルン市議会議員との意見交換では、スワントンストリートや I R 誘致の取組など、メルボルン市が大阪市に先行して行ってきた施策について話を聴くことができ、大いに参考となった。また両市が交流することで互いに協力し補完し合えること、そして両市の絆を再確認でき、今回の 45 周年記念事業がさらなる関係強化につながることを確信できた。

最後に、今回の海外出張に際し、事前の準備及び現地での案内、随行でお世話になった両市の関係者の皆様に心からお礼申し上げます。